都市計画講演会と北東北ブロック学術交流会の報告

■講演会の開催

「東日本大震災における集落等の復興支援とその先にある活動」をテーマにした都市計画講演会が，いわて連携復興センター・北上サテライトオフォスで2013年3月3日（日）に開催された。

前半は饗庭伸氏（首都大学東京），高鍋剛氏（都市環境研究所），菊池広人氏（いわてNPO−NETサポート）からの報告，後半は3人による鼎談，さらにフロアも交えた議論を行った。参加者30人。

饗庭氏の報告：「都市や地域計画はどう変わるべきか？」

漁村の復興計画に携わっている経験から，漁業を生業とする人たちは，復興に関してきわめて理性的な議論を展開しており，そうした社会や環境に内在する復元力を最大限に活用する計画論の必要性が提示された。そして，同じような様式・規律・速度を持つレイヤーの集合として都市や地域の空間を考えると，都市のレイヤー，農のレイヤー，土・自然のレイヤーと3つにわけて考えることができ，現在の「都市」の速度で復興している空間に「農」の速度で復興する空間を混在させることはできないか，との問題提起がなされた。

高鍋氏の報告：「地域レベルの復興に向けて」

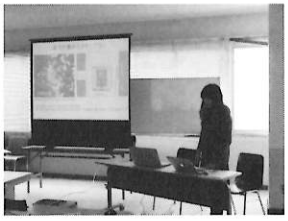
まず，復興には空間復興と人間復興の2つの側面があり，東北ではコミュニティの再生・復興が重要なテーマであることが指摘された。そして，被災者，行政，支援者の主体に着目した場合，必ずしも3者の「距離が同じ」で「連携」しているわけではない現状を挙げ，行政からの受託関係にあるプランナーを含めた場合には，行政の本庁と支所の関係にも留意した各主体の連携の再構築が指摘された。

菊池氏の報告：「地域がきらめく仕組みづくり」

冒頭，2011年9月にオープンした「きたかみ震災復興ステーション」の，沿岸地域と避難者，沿岸地域と支援者，避難者同士・支援者同士がつながる仕組みづくりをコンセプトに支援事業の展開が紹介された。次に，こうした事業展開の際の情報共有の「質」を高める重要性が指摘され，北上市の「あじさい型集約都市」を目指した活動において，独自条例の制定と市内16地区ごとの情報共有の取組みによって地域の課題解決力が高まってきていることが報告された。

鼎談：後半の鼎談では，支援者の横の連携が十分でない点，支援空白地域が存在していること，あるいは生活支援と復興計画支援がつながっていない問題等が議論された。

■学術交流会



午後は，北東北ブロックの学術交流会が開催された。5校から11編の発表があり，熱心な議論が展開された。参加者27人。

終了後の懇親会では，所属をこえた和やかな交流が続いた。

（文責：山口邦雄／秋田県立大学准教授）

表　北東北ブロック学術交流会の発表一覧

セッション司会	題目	発表者	所属
第1セッション 小地沢将之 仙台高等専門学校准教授	市街化区域の拡大とマスタープランの計画不整合により生ずる問題の考察 —岩手県盛岡市を事例として—	工藤　美紗子	秋田県立大学 システム科学技術学部
	仙台市の都市計画道路網見直しにおける廃止区間の特性と影響	高橋　真紀	仙台高等専門学校 生産システムデザイン工学専攻
	山形県遊佐町におけるまちづくりセンターの利用状況の傾向	相原　聡介	仙台高等専門学校 生産システムデザイン工学専攻
	2012野田村シャレットワークショップについての報告	渡部　萌	八戸工業高等専門学校
第2セッション 北原啓司 弘前大学教授	アートプロジェクトによる「創造の場」形成の可能性と課題	太田　尚子	弘前大学大学院教育学研究科
	まち育てにおける創発の形成に関する研究 —関係性が紡ぐ創発の場の可能性—	成田　梨菜	弘前大学大学院教育学研究科
	地域住民の「移動」を支える公共交通の新たな展開 —高齢社会における地域居住の持続可能性に関する研究—	村上 早紀子	弘前大学大学院教育学研究科
第3セッション 河村信治 八戸工業高等専門学校教授	商店街振興における商店街運営組織のコミュニティに関する研究 —盛岡市材木町商店街を事例に—	大水　聡子	岩手大学農学部
	郷土料理の伝承に関する研究 —岩手県花巻市東和町を対象に—	小野寺 夏菜	岩手大学農学部
	都市変遷に伴う生活環境の変化 —モンゴル国・ウランバートル市を対象に—	ジャミヤンドルジ　ソロンゴ	岩手大学農学部
	甘日市市宮島町における伝統的建造物群保存地区制度の導入に関する研究	堀本 史恵	岩手大学農学部